

平成29年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

1	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月20日実施)	総合評価(3月9日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加を目指す、系統性のある教育課程編成の工夫改善とチームでの授業改善の充実を図る。	①「わかる・できる・もっとやってみよう授業」を積み上げる。 ②「授業者支援会議」のシステム化を進め、チームによる授業改善を図る。	①基礎的環境整備を進め、授業のUD化について理解を深め、指導実践例を作成する。 ②「授業者支援会議」で得た改善アイデア等を共有化する。	①基礎的環境整備が進んだか。 ①指導実践例ができたか。 ②「授業者支援会議」のシステムを共有化できたか。	①教室内外の掲示物等を整理工夫した。 ①指導実践例の蓄積は学部により実施できた。 ②会議のシステム作りができた。	①昇降口、図書コーナー部分的に整理できたが、まだ取組むエリアがある。 ①UD化の視点からの分析が不十分である。 ②参加者が少ない。開催時間の明確化と欠席者への共有化のためにファイリングを周知する。	①学校長のリーダーシップの下、基礎的環境整備の取組みが大きく進んだ。 【保護者アンケート】「わかりやすい授業が工夫されているか」⇒そう思う58.5% ②具体的な目標を立てて取組む等、工夫改善が必要である。	①教室内の整理をさらに進めるため、教材室の有効活用を図る。 ②参加しやすい時間設定が課題である。また、検討結果及び成果を共有するシステム作りをさらに工夫する必要がある。	①教材室の整備には新しい分掌係を組織して支援する。また、夏季職員作業や高等部作業学習等を活用し整備を継続する。 ②年間予定に組み込み計画的に開催する。また、学習グループごとの共有ファイルを整備する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	児童生徒一人ひとりの特性や教育ニーズを的確に把握し、個々の可能性を伸ばさせる指導を行う。	①個々の特性や教育的ニーズをQOLの視点で把握し、共有化する。 ②個々の合理的配慮に基づいた指導、支援を実践する。	①児童生徒の実態の捉え方として共通認識できるツールを作る。 ②個々の児童生徒の重点目標を明確に記す。	①共通認識できるツールが作成できたか。 ②重点目標が明確になった指導計画が作成できたか。	①学部によりチェックリストの活用が高まった。 ②年度当初の教育計画作成研修会により、重点目標から指導内容までの流れが明確になった。	①使用しているツールの妥当性や汎用性等の吟味が必要である。 ②指導計画の妥当性や正確性を担保する客観的なアセスメント等、多面的な視点も必要である。	①専門職との連携を進め、全教員で共通理解できるツールを共有すること。 ②例えば「性教育」等、地域社会や生活に密接する指導内容に取組む必要がある。 【保護者アンケート】「重点指導目標がわかりやすいか。」そう思う60.8%	①研究等で工夫したツールの妥当性の検証及び活用方法の共有が必要。 ②自立と社会参加に向けた取組みが明確になった。授業で取組んだ成果を発表する場が設定されており、児童生徒の自己肯定感の向上につながっている。	①専門職等の活用により知識技能を深まる。 ②年間予定に教育計画作成期間を明記し、会議見直しをもって作成できる環境を作る。
3	進路指導・支援	①キャリア教育の視点(社会的自立)や「生活の充実」に向けた確かな学力を培う。	①キャリア教育の視点(社会的自立)や「生活の充実」に向けた確かな学力を培う。	①人間関係形成能力(つなぐ力)を伸ばす指導に取り組む。	①人間関係形成能力(つなぐ力)を伸ばす教育活動を積み重ねたか。	①指導内容や授業体制等に「つなぐ力」の育成の視点が定着しつつある。	①学校間交流や学部間交流が定着した。また、本校と分教室との交流については、取組み方を工夫しさらに活性化を図る。	①学部・分教室・近隣校交流が充実した。さらに公民館祭り等の地域行事へ積極的に参加して地域資源を活用してほし	①近隣学校や施設等との交流及び共同学習が推進されている。	①引き続き、年間計画で適切に設定するとともに、関係者間の連携を深めて新たな取組みへ発展させる。

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月20日実施)	総合評価(3月9日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	②児童生徒の主体的な進路選択実現のため、教職員・保護者向け研修会を実施し、進路選択に関する理解推進を図る。	②児童生徒の主体的な進路選択実現のため、教職員・保護者向け研修会を実施し、進路選択に関する理解推進を図る。	②企業等の外部講師による学習会を年2回以上開催し、就労に向けた重点的な指導内容の共通理解を図る。	②外部講師を招いた学習会を2回以上開催できたか。 ②共通理解が図れたか。	②目標どおり開催することができた。また、進路担当や就労先の人材を積極的に活用できた。	②研修が単発的に実施された。指導研究部及び連絡調整会議で検討し、研修体系の整理の中でバランスをとる。	い。 ②計画的・継続的に実施することが必要。	②基礎的基本的知識が高まった。学校全体の研修体系・研修計画の中で、見通しを持って取組む必要がある。	②教員の専門性を高める研修体系一覧表を作成し、計画的に取組む。
4	地域等との協働 地域との連携を図り、地域資源を活用した教育活動を推進する。地域における相談支援センターとしての機能の充実を図る。	①交流及び共同学習を推進することにより地域へ障害理解を深めるとともに、地域資源を活用する授業をいっそう充実させる。 ②学校コンサルテーションの視点から巡回相談等の支援方法を見直すとともに、支援先機関への理解推進を図る。	①ゲストティーチャーや学習支援ボランティア等の活用を推進する。 ②関係者間の情報共有及び相談ケースの対応方法の共通理解を図る仕組みを定着させる。	①ゲストティーチャーや学習支援ボランティア等の活用が増えたか。 ②支援スタッフ(学部室長、自活相談担当等)間の情報共有を図る仕組みが定着できたか。	①学部により活用状況が異なるが、さまざまな人材を活用する取組みが行われた。 ②相談票等のツールが定められたため、的確な相談体制が展開された。	①回数は増加しなかったが学習効果は高かった。共生社会に向けてさらに地域の人材活用を図る。 ②情報共有を図る仕組みづくりは概ね定着した。今後さらに相談内容に応じて、適切な体制・支援が可能になるよう、関係者間で組織的に取組む。	①学習支援ボランティア等については、学校関係者以外にも拡大して、活用範囲を拡大するとよい。 【保護者アンケート】「ゲストティーチャー等の活用が増えたか。」と思う21.1% ②相談体制については、校内外の機関連携を図ることが必要。	①身近な卒業生や実習先企業等の講師のため、興味関心を深めて学習に取り組むことができた。保護者等への広報活動が不足し、保護者評価が低かった。 ②記録媒体の特長を理解し、効率のよい情報共有を図るために、ケースに応じてツールを工夫することが課題である。	①学習支援ボランティア等の活用を継続しつつ、地域の人的及び環境的資源の有効活用を図る。 ②ケース会議の進め方に関する知識技能を深めるため、研修会や情報提供を図り、チームにあった適切なツールを工夫する。
5	学校管理 学校運営 安全で安心な教育環境の整備、学校体制整備を進める。教職員の人格的資質、指導力の向上及び人材育成を図る。	①安全管理体制の徹底を図るため、引き続きマニュアルの改訂に取組み、機会を捉えて周知する機会を持つ。 ②ユニバーサルデザインの観点で、環境整備を進める。	①特に物品管理、スクールバス及び私費会計についてマニュアルの改訂を行い、定期的に周知徹底する機会を設定し事故を防止する。 ②誰もが分かりやすい、使いやすい環境を整備する。	①各マニュアルの改訂ができたか。 ①事故を防止できたか。 ②ユニバーサルデザインの観点で環境整備が進んだか。	①各種マニュアルの改訂があり、より分かりやすい内容になった。 ②整理整頓は進んだ。事故防止につながった。	①必要十分な業務整理に努め、「分かりやすい」マニュアルになるよう臨機応変に対応する。 ②UDについては基礎的研修を踏まえて、教室環境や授業の進め方についても、活用する。	①事故なく学校経営がなされた。今後も地域・保護者の信頼を高める努力を継続すること。 ②老朽化対策は課題であるが、職員の整理整頓、清掃が行き届き、分かりやすい・使いやすい環境作りがなされた。	①個人情報に関する文書及び会計書類等の重要文書の取扱いについて見直しを行い紛失等の事故を防止できた。 ②ユニバーサルデザインに関する職員間の共通理解や保護者への普及の取組みが不足していた。	①業務の正確性・安全性・効率性を向上させるために、今後もマニュアルの改訂や業務改善に取り組む。 ②広報活動を充実させるとともに、計画的な修繕等の老朽化対策を継続する。